

# 第二次地域福祉活動計画

計画期間: 2019年4月1日から2024年3月31日まで (5 年計画)

2023年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfare



# とりでYOU・Iのまち

## 「とりでYOU・Iプラン」の進行管理

### 1 目的

この方針は、「とりでYOU・Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

### 2 進行管理の対象

#### (1) 行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

### 3 進行管理の実施体制

#### (1) 事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・行動計画の進行進捗状況について、年度内に取手市社会福祉協議会運営委員会に報告し、助言を受けることとする。
- ・助言等を受け行動計画の修正を図り、年度末にその状況等を取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

### 4 評価の基準

#### (1) 成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年間の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

### 5 進行管理の実施時期

#### (1) 成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

#### (2) 今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、2月の事業所連絡会議において確認・検証する。

### 6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

## 第二次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 令和5年度実行計画進行管理

### 1. 基本方針

第二次地域福祉活動計画が始まり、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してらせる福祉のまちづくり」という基本理念のもと、市、地域団体、市民の協働により、地域課題を解決するべく市民全体で取り組んでいけるような、住民主体の仕組みづくりを目指します。

とりでYOU・Iプランは、第二次計画5年目、最終年度となり、引き続き5つの行動目標に対して市内で行われている、市、団体等の事業、行事等を調査、把握し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

### 2. 令和5年度の取り組み

今年度は5月の新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、活動制限が徐々に緩和され、長く続いたコロナ禍で低迷していた地域での交流活動について、高齢化が進む中で体力や認知機能の低下が懸念されていましたが、明るい兆しが見えてきました。今まで中止になっていたイベント関係および地域での行事も再開し始め、低迷していた地域交流も以前のような状態に戻りつつあります。

地域交流拠点としてのふれあいサロンは6団体が新設され、希薄になった地域の交流を再開したいとの思いのもと活動が行われています。

また6月には双葉地区において大雨による浸水災害も発生し、災害ボランティアセンターを開設、県内外からのボランティアの受け入れもありました。地域防災については日頃から自主防災会等、地域での取り組みが種々行われてきましたが、災害発生における実際の自治会の活動について、どのようなことが求められ、どのように対応することが重要かということを経験しました。

そして災害後の双葉地区では、NPO法人等の協力により設立された「地域交流センターつなぐ」を引継ぎ、双葉住民によるボランティア団体、ふれあいサロン「つなぐ」も設立されました。地域の住民が集まる場所、居場所づくりの重要性についても認識され、被災者に寄り添う活動を住民自らの手で行うという団結のもと、自然発生的に生まれています。

また、地域での「子育て支援の促進」については、子ども食堂のイベント協力を行いました。今年度は2ヶ所のこども食堂でイベントに参加し、実情把握に努めました。

学生や若者への福祉体験推進に向けては、福祉教育プログラム「やさしい心の種をまく」について、来年度に向けて新たな講師と障がい者施設への受け入れの項目を追加し、内容の充実を図りました。

さらに若年層のボランティアについては主にこども食堂のボランティアをしている高校生のふれあいサロン「ひとつ空の下で UNSAM」の活動が大きく飛躍し、参加する学生も多数になり、こども食堂のボランティアのほか、募金活動、地域と子ども食堂をつなげるための交流イベント「こども桜祭り」の開催、福祉まつりでも企画したバックなど手作り品にも注目が集まりました。

高校生の活躍については、聖徳女子高等学校探求学習グループがひまわりからオイルを抽出した「リップバーム」の作成や、江戸川学園取手高等学校では制服生地をリサイクルしたバッグの売り上げを寄付する「バトンバックプロジェクト」等の活動を行っています。今後も活動の広がり期待が持てます。若い力が社会貢献活動の後押しをして、新たな活動につながる可能性や発想力に期待が持てます。

取手市内でも多種多様な活動が展開されています。今後も取手市の地域性に合った活動を調査研究し、住民主体の仕組みづくりの構築に一層取り組んでいきたいと思えます。

第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度			
担当者	職名	主幹	氏名	寺田篤史
該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進	
	取り組み	①	福祉に関する情報の共有促進と理解者の拡大	
現状と課題	地域の情報発信には、様々なメディアが使用されており、それぞれの特性を生かし、情報を多角的に発信することで、より多くの関心を引くことができる。その中でも若年層の福祉への関心を高める為に、同世代の者たちが行っている活動を紹介していくことが必要と思われれます。			
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>情報発信について適切な方法で随時必要とされる情報を発信することに努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：取手市社協情報誌の中で、学生たちの活動や地域のこども食堂の活動を紹介し、市内の若年層がどのような福祉活動を行っているのか、またどのような福祉支援を受けているのかを知ってもらうことで若い世代にも福祉への興味を持ってもらえるようにしていきます。</li> <li>・実施期間：令和6年3月まで</li> <li>・達成目標：令和5年6月号、9月号、12月号、令和6年3月号の取手市社協情報誌掲載内容に市内学生たちの活動や市内こども食堂の紹介を行います。</li> </ul>			
令和5年度 の実施状況	社協情報誌161号 (令和5年6月発行)	ボランティア団体UNSAM (アンサム) 市内高校生のボランティア活動を助けるUNSAM (アンサム) を取材しました。高校生たちがボランティアについて話し合い、募金活動やこども食堂のボランティア活動を行っていることを紹介しました。		
	社協情報誌162号 (令和5年9月発行)	聖徳大学附属女子高等学校「ひまわりプロジェクト」 聖徳女子高等学校探究学習グループを取材しました。ひまわりからオイルを抽出し、リップバームとして販売。売り上げを地域活性の為に使用する活動を行っていることを紹介しました。		
	社協情報誌163号 (令和5年12月発行)	江戸川学園取手高等学校「バトンバッグプロジェクト」、こども食「にっこりキッチン」		
		江戸川学園取手高等学校の生徒さんが行っており、制服生地などをリサイクルしてバッグに仕立て、売り上げを福祉へ寄付する活動の取材と「子ども食堂にっこりキッチン」の夏祭りの取材を行いました。		
<p>&lt;情報誌に寄せられたご意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の取り組みが面白かったです。(161号)</li> <li>・市内の高校生がボランティアをしていることを知りませんでした。(161号)</li> <li>・高校生の善意の催しに感激しました。若者たちの話題は元気づけられ心なごみます(163号)</li> <li>・高校での活動を取り上げるのは真新しいので、学校教育での取り組みをもっと知りたいと思いました。(163号)</li> </ul>				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		6月～ 12月	4	若年層の福祉の活動やこども食堂について情報誌を通して紹介することができました。ご意見にもあるように、「活動を知らなかった」や「元気づけられる」などの声が上がっていたことが印象深く感じられました。市内には、まだ知られてない若年層が積極的に行っている福祉への取り組みが多くあります。それらの活動を紹介していき、多くの若年層が福祉への関心を高めていくことが必要であると思いました。	
	課題				
	今回は情報誌にて紹介を行いましたが、ご意見等を見て若い世代の方が社協情報誌を見るのが少ないと感じました。今後は若年層にも情報が届きやすい手段を用いながら福祉の情報を発信する必要があると感じました。また、こども食堂の紹介について、今回は1カ所しか紹介できていなかったため、多くのこども食堂を紹介していけるようにしたいと思います。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	若年層が取り込みやすい携帯電話やパソコンを使った福祉のデジタル情報提供の促進します。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	社協、市、ボランティア団体、学校との連携を図ります。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		6年4月～ 7年3月	若年層の福祉への取り組みや、こども食堂をの紹介を行いながら様々な機関との意見交換、アンケート調査を行いながら新たな情報伝達手段の構築を考えていきます。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
・高校生の情報が情報誌に掲載されることで親世代にも良い影響があり、若い世代のボランティア参加にもつながります。今後も若い世代の活動の情報発信に力を注いでほしいと思います。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度		
担当者	職名	主幹	氏名 佐野 紀子
該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進
	取り組み	②	福祉教育アプローチの構築
現状と課題	<p>ここ数年、市内小中学校へ「やさしい心の種をまく」を配布してきたことで、各校のボランティア担当者にあらかじめ福祉教育活動について知ってもらう機会を作ってきました。実施してきたアンケート調査の結果、現状での問題点や新たなニーズも浮かび上がってきています。高校生や大学生にも認知活動の幅を広げて行くよう内容の更なる充実を図り、各世代にあったメニュー作りも検討して行く必要性を感じました。</p>		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで にどのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>地域福祉についてのより深い知識の習得に向けて福祉教育研修会を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：「やさしい心の種をまく」をすべての年代に対応できるようにバージョンアップ、市内各所への掲示、配布を通じて更なる広報活動に務めるとともに前年に引き続き、受け入れ先、協力いただける機関についての開拓を進めます。</li> <li>・実施期間：令和6年3月まで</li> <li>・達成目標：福祉団体、ボランティア団体等の協力機関を見つけます。</li> </ul>		
令和5年度 の実施状況	<p>「やさしい心の種をまく」のバージョンアップを行うために協力いただける新たな講師や施設への受け入れのなど内容の充実を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盲ろう者についての体験（盲ろう者の生活と指点字を学ぶ）を追加しました。</li> <li>・施設職員による知的障がい者に関する講話と施設受け入れについての項目を追加しました。</li> <li>・施設職員による身体障がい者に関する講話と施設受け入れについての項目を追加しました。</li> </ul>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		9月～ 3月	4	盲ろう者の体験や知的障がい者、身体障がい者施設職員による講話と施設受け入れについての項目を追加し、学校の福祉教育に関する意向に幅広く応えていけるようになりました。	
	課題				
	新たな学校での福祉体験の広がりが不十分であるため、定期的に学校などに福祉教育についての説明を行い、学びの場で「やさしい心の種をまく」を活用していただけるようにする必要があります。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	引き続き取手市の校長会での福祉体験についての内容を説明するとともに各学校のボランティア担当者にも理解を得られるよう努めます。また、「やさしい心の種をまく」について、様々な分野の講師を紹介できるよう内容の充実にも力を入れ、魅力あるプログラムを提供できるようにします。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	障がい者施設等での学生や児童の参加しやすい体験の時期についての調査を行い、施設との受け入れ期間の調整を行います。新たに追加したプログラムについては学校関係者等に知っていただけるよう丁寧に説明をして新たな体験学習を行えるよう取り組みます。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		6年4月～ 6年9月	教育機関等に「やさしい心の種をまく」を活用できるよう、配布を継続して行い、幅広い世代に受け入れられるようなプログラム作りをしていくとともに、体験していただくよう広報活動をしていきます。		
	6年10月～ 7年3月	教育関係者の意向に沿った体験プログラムを提案し、学校での体験を実施していきます。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度			
担当者	職名	主事	氏名	井坂はるか
該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	取り組み	①	新たなボランティア活動の推進、地域への参画	
現状と課題	<p>高齢化により、地域での困りごとについて解決する仕組みづくりが必要です。自治会町内会など小地域での知り合い同士の助け合い活動について、高齢者でも得意な分野、できることで協力し合えるような仕組みづくりにより地域で暮らしやすく安心安全なまちづくりが求められています。</p>			
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1) 小地域での助け合い活動の仕組みづくりを考えます。          ・実施内容：地域での交流拠点としてのふれあいサロンの立ち上げを推進します。          ・実施期間：令和6年3月31日まで          ・達成目標：市内のニーズ調査と新たなふれあいサロンを立ち上げます。</p> <p>(2) 地域の現状や課題について話し合いの機会を持ちます。          ・実施内容：小地域で行われている座談会や市民の集いの場での住民ニーズを調査します。          ・実施期間：令和6年3月31日まで          ・達成目標：市内で行われている座談会や団体等の活動状況を把握します。</p>			
令和5年度の実施状況	<p>(1) 双葉地区や小文間地区では、交流の場の必要性について住民からニーズが出ています。コロナ禍で稀薄になった地域では、小地域での交流の場を求めて茶話会や話ができる拠点を必要とする方が多く、協力するボランティアがいればふれあいサロンとして活動が始まりやすい現状にあります。</p> <p>(2) 各地域での社会資源や特色を知るため地域包括支援センターの各圏域で行われているふれあいサロンについて一覧にしました。</p>			

進行 管理	成果 状況	9月～ 3月	4	成果状況に対する説明	
				(1) 双葉地区では、ふれあいサロンが開設して社協での協力やメリット等についてと今後の方向性など協力体制ができました。 (2) 地域の特性やボランティア活動の状況、関わるボランティアについてを知ることができました。	
	課題				
	(1) (2) ボランティア活動を継続的に行うことを考えて多くの方に理解を得て協力者を募る必要があります。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	(1) (2) 地域での活動について、多くの方に知っていただき、協力者を募ると同時に多くの方に利用していただき、そこから地域の方に活動の良さを伝えていただく必要があります。ボランティアの高齢化は進んでいくため、利用者もできることは協力して共生型のサロンになるような仕組づくりが必要です。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	(1) (2) 地域の自治会町内会、ふれあいサロンの団体間の情報交換、助成金情報や助成をする団体など継続するため情報共有が必要になります。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		6年4月～ 7年3月	(1) (2) 今年度の地域の取り組みを整理し、効果的な方法をまとめ地域性と関係団体と連携して情報共有により、地域資源、人材発掘を行い、地域交流拠点の推進に努めていきます。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担手の育成	
	取り組み	②	次世代（若者）担手の育成、拡大	
現状と課題	障がいのあるなしにかかわらず地域で様々な方々が交流できるような社会、地域共生社会への取り組みが求められています。特に超高齢化社会には誰もが社会参加し、多くの方が知り合いを作ったり趣味や特技を生かしてコミュニティづくりをしたり、ボランティア活動などへの参画をすることで助け合いの精神につながります。仲間作りから地域での助け合いにつながるような仕組みづくりに発展することが望まれます。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで にどのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>(1) 障害のある方との交流を持つ機会を作ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：障がい者交流イベントや障がい者スポーツを推進します。</li> <li>・実施期間：令和6年3月31日まで</li> <li>・達成目標：市内で行われている障害者の交流イベントの調査と団体の活動状況を把握します。</li> </ul> <p>(2) 子育て世代がボランティアに参加する仕組みを作ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：子どもと高齢者の交流を持てるようなサロンを開設します。</li> <li>・実施期間：令和6年3月31日まで</li> <li>・達成目標：子育てサロン1ヶ所の開設を目指します。</li> </ul>			
令和5年度 の実施状況	<p>(1) 障がい者関係のイベントを調査し、一覧にしました。障がいのあるなしにかかわらず誰もが参加し、交流を図るようなイベントなど、どのようなことが行われていてどのようなニーズがあるかを知るため参考になるので、現在行われているものと今後必要になるものについてを研究していきます。そのほかイベント等を障がいのある方が参加しやすいような広報についても研究する必要があります。</p> <p>(2) こども食堂1箇所が開設されました。現在は来場した方に食事を配るようなものですが、来年度からイベントと会食型に移行する予定で、他世代の地域交流拠点としてのこども食堂を開催する予定です。</p>			

	<b>成果状況評価</b>		<b>成果状況に対する説明</b>
	9月～3月	4	(1)障がい者の居場所づくりとして活動拠点の決定やイベントを開催する団体への参加につなげられるよう、イベントの開催する団体を知ってもらうことが必要となるため、開催状況の把握とそこから広報についての方法を随時行っていけるような取り組みが必要となります。 (2)こども食堂については社会的に関心が高く、助成金制度や寄付者も多くなってきています。取手地区で多くの子ども食堂が開設され、地域での交流拠点として他世代が集う場所として、こども食堂についてはふれあいサロンとしての登録をしてもらい社協での助成金等の補助も行っています。
進行管理	<b>課題</b>		
	(1)障がい者イベントについて、障がいがある無しにかかわらず参加しやすい内容について効果的な広報を行う必要があります。 (2)拠点とする場所の選定や協力するボランティアを多く募る必要があります。特に調理については衛生面に関する注意が必要となり、できれば専門的な知識がある方の協力も必要となります。		
	<b>課題解決のための改善内容・取り組み方針</b>		
	(1)現時点で広報とりでによる広報では、点字や音訳など視覚障がい者への情報保証もあり、多くの人に伝えることが可能になりますが、若年層についてはSNSでの告知など内容も伝わりやすく行うことが必要です。 (2)こども食堂の連絡会をつくり、連携を図って運営についての情報共有や助成金等活用状況などの意見交換の場を持つことにより、より良い運営方法についてそれぞれの団体が行っている良い部分を参考にすることができます。		
	<b>協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)</b>		
	(1)とりで障害者協働支援ネットワークや社協に登録する障がい者団体等に、様々なイベントの開催における広報活動の協力、イベント開催の情報提供もしていただき情報を共有します。 (2)市内外にかかわらず現在こども食堂を行っている団体との連携、情報共有を行い運営面での強化につなげます。		
	<b>今後の方向性</b>	<b>期間</b>	<b>今後の方向性の説明</b>
6年4月～7年3月		(1)イベント等を障がいのある方が参加しやすいような広報について実施していきます。 (2)子ども食堂を行っている団体との連携、情報共有の仕組みづくりを行っていきます。	
	年 月 ～ 年 月		
<b>取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見</b>			
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度		
担当者	職名	係長	氏名 橋本 睦
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	取り組み	①	安全に暮らせるまちづくりの推進（バリアフリー）
現状と課題	<p>普段生活している際に子どもや高齢者、障害のある方が日常生活において危険や不便を感じる場所を把握し、緊急時や避難時の危険個所として周知することは大切であります。しかしながら地域情報についてはあまり把握できておらず、まずは各地域の情報を丁寧に収集していくことが大事と考えました。実際に地域住民の安全の為に活動を行っている団体や災害発生時の対策本部や救援体制の整備強化を図っている地域もあり、その情報収集や整理を行いたいと思います。</p>		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>(1) 危険度エリアマップづくりのための検討会を実施します。          ・実施内容：自然災害について災害ボランティアセンターの情報集約を行います。          ・実施期間：令和6年3月末までに          ・達成目標：各市町村の状況を茨城県社会福祉協議会に聞き取り実施及び情報集約します。</p> <p>(2) 地域見守り隊の活動          ・実施内容：地域における見守り・防犯等の取り組み状況についての調査します。          ・実施期間：令和6年3月末までに          ・達成目標：取手市教育委員会、関係団体、各町会等への聞き取り及び情報集約します。</p> <p>(3) 緊急支援できるボランティアを育成し、組織化をめざします。          ・実施内容：災害が起きた地区の自主防災会や町内の取り組みについて聞き取り調査します。          ・実施機関：令和6年3月末までに          ・達成目標：取手市役所関係機関、市社協担当、自主防災会等への聞き取り調査、情報集約します。</p>		
令和5年度 の実施状況	<p>(1) 茨城県社会福祉協議会では、茨城県と協働し、災害ボランティア活動向けに特設サイト「災ボラSTANBY（スタンバイ）」を開設。災害ボランティア活動に必要な情報や基礎知識や研修などを発信しております。また、各市町村向けにも研修を行っており、災害時におけるボランティア受け入れについて、職員研修も行っております。</p> <p>(2) 地域における見守りとして、取手市社会福祉協議会包括支援センターは地域包括藤代なごみの郷と協働で、オレンジカフェを年3回（福祉センターふじしろのカフェウエルカムで2回、藤代公民館にて1回開催）、地域包括はあとびあでは年2回季節のイベントと併せて開催、地域包括さらの杜では永山会館と戸頭西集会所、新取手自治会館、戸頭お休み処で各年1～3回開催し認知症の方等の不安を抱えている方の相談・見守りをしております。</p> <p>(3) 災害が起きた地区の自治会のと組みととして、2023年6月の台風2号と梅雨前線の大雨により、浸水被害に遭った双葉地区で、新たに復興支援・地域交流の拠点として地域交流センター「つなぐ」が立ち上がりました。継続的な復興サポートや住民が活発に交流できるような場の提供や、NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズや特定非営利法人ADRA JAPAN・一般社団法人四番隊や一般社団法人OPEN JAPAN・及び紫水高校ボランティア有志等と双葉地区自治会で立ち上げ、双葉地域住民の交流やイベント開催を行う事が判りました。今後地域の情報の場としても出前講座で認知症サポーターの講演やイベントとして将棋連盟に協力を頂き、将棋教室を子供向けに開催しました。</p>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～ 3月	4	(1) 茨城県社会福祉協議会では、今後の災害等に備え市町村向けに情報共有に務めていることが解りました。万が一の為、取手市での災害ボランティアセンターの基礎づくりも必要です。(2) 高齢者見守りについては、各包括のオレンジカフェが地域に根ざした、見守り・相談支援などを行っております。(3) 災害地区で住民と民間4団体での協働で新たに交流センターとして立ち上げて復興サポートや、地域住民の交流の場として活動しております。	
	課題				
	(1) 災害も豪雨災害や土砂災害など多様なため、災害対策について今後どのような支援等が必要となるのかを、県内各市町村の地域に沿った活動をもう少し調べていく必要があります。あわせて、住民に対しても、災害時はどのような支援があるのか等、あらかじめどこに問い合わせたら、スムーズに情報を得ることが出来るか等の情報共有の周知・検討も必要であります。(2) 調査時に高齢の見守りボランティアの解散等、担う方々の高齢化や後継者不足が今後の課題であります。(3) コミュニティの存続に向け、どのような支援が必要になっていくのか等、今後把握が必要になると思われま				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	(1) について、今後も茨城県社会福祉協議会や自治体・各市町村社協や、自治会やNPO法人など、幅広く連携が必要であります。 (2) について高齢者の見守りについての調査を中心にしております。 (3) 災害地区でのコミュニティについては、各種の団体が支援している事が調査によりわかりました。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	災害について、茨城県社協や各市町村社協との情報共有や連携が必要な為、日々変化する災害対応等について、最新の情報共有が必要であります。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		6年4月 ～7 年3月	(1) 今後も情報収集に務めていきます。(2) や(3) 引き続き、調査等が今後も必要であります。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度			
担当者	職名	主幹	氏名	安田 理恵
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	取り組み	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<p>地域の課題として、低所得、独居化、家族関係の希薄化が進む中、どのようにしたらよいかとの不安等があり、自分の困っていることや福祉全般の相談について気軽に相談でき、援助してもらえるサービスについて分かりやすく教えてもらえうような総合相談体制がほしいとの希望があります。</p> <p>気軽に相談できる仕組みづくりと、多様化するニーズに対応する幅広い相談支援の充実を目指し、更なる相談機能強化と関係機関との連携強化が必要とされています。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。          ・実施内容：困りごと等への相談の仕組み、連携等の現状の調査します。          (行政、市社協レベルにおいて)          ・実施期間：令和6年3月までに          ・達成目標：行政、市社協、地域包括支援センター等相談機関への聞き取りの実施します。</p> <p>(2) みんなで守る意識を高めます。          ・実施内容：地域での助け合いへの取り組みの現状調査します。          ・実施期間：令和6年3月までに          ・達成目標：地域のサロンやNPO法人等民間団体への聞き取りの実施します。</p> <p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。          ・実施内容：地域における訪問活動等の取り組みの現状調査します。          (行政、市社協レベルにおいて)          ・実施期間：令和6年3月までに          ・達成目標：行政担当課、市社協への聞き取りの実施及び集約します。</p>			
令和5年度 の実施状況	<p>(1) ニーズを早く解決する為の仕組みや体制をつくります。          実施内容：行政や地域包括支援センター等各相談機関への聞き取りを実施</p> <p>(2) みんなで守る意識を高めます。          実施内容：地域サロンやNPO法人等民間団体への聞き取りを実施</p> <p>(3) 見守り助け合いネットワークづくりの充実を図ります。          実施内容：地域包括支援センターや民生委員へ聞き取りを実施</p>			

進行管理	<b>成果状況評価</b>		<b>成果状況に対する説明</b>	
	7月～3月	4	各相談窓口において連携を図り、よりスムーズに課題解決に向けた取り組みの現状を把握しました。また、NPO法人とりで市民後見の会へ市民の方からの相談を受けた際の状況について聞き取りを行い、行政の適切な相談窓口へ繋ぎ関係機関とともに連携し対応していることがわかりました。 また、サロンにおいて周りの方からの声や利用者の変化に気付き、地域包括支援センターへ繋いだ事例の他、民生委員の訪問活動の中で、市民の方との関係作りの苦労やどこまで問題に踏み込むべきかの判断が難しいとの声を聞くことができました。	
	<b>課題</b>			
	複雑化・複合化した課題解決に向けてスムーズに適切な支援に繋がるよう、引き続き、地域での見守りや各関係機関の連携を強化していくことが必要です。			
	<b>課題解決のための改善内容・取り組み方針</b>			
	地域において、気軽に話ができる場所や機会を作り、相談窓口の情報がわかるようにしていきます。また、様々な生活課題に対応する相談体制の整備を進めていきます。			
	<b>協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)</b>			
	(1) については、取手市福祉部各課と取手社協生活支援係の協働・連携 (2) については、取手市市民協働課・福祉部各課、地域包括支援センターと取手社協地域支援係の協働・連携 (3) については、取手市福祉部及び地域包括支援センターと取手社協地域支援係の協働・連携			
	<b>今後の方向性</b>	<b>期間</b>	<b>今後の方向性の説明</b>	
		6年4月～7年3月	相談支援体制の整備を進め、関係機関と情報共有し課題解決に繋げていけるよう連携の強化を図ります。	
	6年4月～7年3月	地域のネットワークを強化し、支え合いの仕組みづくりを進めていきます。		
<b>取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見</b>				
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度			
担当者	職名	主幹	氏名	安田 理恵
該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	取り組み	③	ふれあいの機会を増やします	
現状と課題	<p>コロナの影響で令和2年度より地域のイベントの開催は自粛傾向となり、市民の方々の交流の機会が減少している状況でしたが、昨年度の調査により、徐々にではありますがイベントが再開されていることがわかりました。</p> <p>今後、更なるイベントの開催によって交流機会の増加が期待される中で、誰でも参加しやすい企画の工夫や情報発信の強化が必要となります。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに どのレベルまで 達成させたのかなど)	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：市内で実施されているイベント等の現状調査します。 (行政、市社協、関係団体、市民レベルにおいて)</li> <li>・実施期間：令和6年3月までに</li> <li>・達成目標：実施イベントの調査の実施及び情報集約します。</li> </ul> <p>(2) 福祉施設との交流の機会を増やします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：市内福祉施設での地域住民・学生等との交流機会の現状調査します。 (行政、市社協、関係団体レベルにおいて)</li> <li>・実施期間：令和6年3月までに</li> <li>・達成目標：各関係機関への調査の実施及び情報集約します。</li> </ul>			
令和5年度 の実施状況	<p>(1) 誰でも気軽に参加できるイベントを開催します。</p> <p>実施内容：市内で実施されているイベント等について行政担当課及び関係団体へ聞き取りを実施</p> <p>(2) 福祉施設との交流の機会を増やします。</p> <p>実施内容：市内福祉施設での地域住民・学生等との交流機会について聞き取りを実施</p>			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	7月～ 3月	4	<p>(1) 今年度のイベント開催状況を調査し、昨年度同様に一覧にまとめ、情報共有することができました。今年度は、コロナウイルスが5類感染症へ移行されたこともあり、以前と同様とまではいかないものの昨年度に比べ多くのイベントが再開されたり、多くの方が参加されています。</p> <p>(2) 介護ボランティアの受入れや活動状況について調査を行いました。昨年度に比べ、受入れ可能施設も多くなり利用者数についても月約3倍増加しています。</p>
	課題			
	<p>・近年、イベントも多様化しており、開催時期が重なることが想定されるため、効果的な集客ができるよう啓発について工夫が必要です。</p>			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<p>・地域で暮らす様々な人々が交流できる場づくりを支援し、身近な集いの場の増加に結びつけます。子どもや高齢者など、多世代交流の推進します。また、より多くの方々に届く情報発信の仕組みを考えていきます。</p>			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<p>(1) については、取手市民協働課、福祉部各課と取手社協の協働・連携  (2) については、取手市民協働課、取手社協の協働・連携</p>			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		6年4月～ 7年3月	地域における交流を促進するために、様々な人々が交流できる場づくりを支援していきます。	
6年4月～ 7年3月		様々な活動の情報について、より多くの住民に届く発信の仕組みを考えていきます。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<p>課題の部分で効果的な集客ができていません。啓発が不十分というような強い表現ではなく、やわらかい表現にしたほうが良いと思います。 ※ご指摘によりの課題部分の表現を変更しました。</p>				

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり	
	取り組み	①	地域拠点づくりの促進	
現状と課題	<p>取手市では5圏域での協議体があり地域の課題を地域で情報共有し、様々な活動へと発展するような仕組みづくりが行われています。地域の方々の多くが協議体での活動について理解し、市内での情報共有や地域活性化につながるような活動が行われることが求められています。また、高齢者や子どもが気軽に参加できるような世代間交流のできる仕組みづくり、こども食堂のように子どもたちが孤食にならないような取り組みなど地域で高齢者や子どもを見守る仕組みづくりが求められています。</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<p>(1) 地域福祉推進体制を整備します。          ・実施内容：協議体の活動状況の把握に努めます。          ・実施期間：令和6年3月31日まで          ・達成目標：協議体での活動についての状況を把握しそれぞれの内容を集約します。          (2) 地域のニーズに応じた社協活動の推進を進めます。          ・実施内容：高齢者や子どもが気軽に参加できるような世代間交流について研究します。          ・実施期間：令和6年3月31日まで          ・達成目標：こども食堂や孤食や孤独にならないような地域での子どもや高齢者を見守る仕組みづくりを推進します。</p>			
令和5年度 の実施状況	<p>(1) 協議体の会議等に各圏域での状況と他の圏域の活動についての状況について把握するために参加しました。それぞれの地域で交流の場の必要性や高齢者の移動の問題、地域情報入手について共通した問題があり、検討されていることがわかりました。          (2) 今年度についてはこども食堂2団体の新規登録があり、ふれあいサロンとして活動を開始しています。子ども食堂に限らず地域交流拠点についてのニーズは各地であります。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		9月～ 3月	4	(1)市内の各圏域での活動の状況が他の地域でも同様の活動に発展できる可能性があるため、地域情報を提供し合い、情報共有が必要になります。 (2)地域交流が稀薄になっていることから交流の場の必要性を感じている方が多く見られ、社協への相談が増えています。ふれあいサロンは身近な集会所や地区公民館等を拠点として比較的簡単に始められる活動として受け入れられ、今年度は6団体が新規で活動を始めました。高齢化が進んでいるため、比較的近い場所を活動拠点とした活動であるため、ボランティア団体の登録が増えています。今後も多くの方にふれあいサロンについて知ってもらい地域交流活動としてのボランティア活動につなげていきます。	
	課題				
	(1)情報発信について取手全体に活動を知っていただけるようにすることが難しく、個別に対応している状況です。効果的な広報等が必要になります。 (2)地域の活動についての必要性や、今後の高齢化社会に対して市民の方が危機感を持っている地域において、介護予防を通じた地域の交流についても広報していく必要があります。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	(1)(2)共通なものとして市内外の課題解決をしている先進地の視察、実際に行うための手法を学んで、地域の活動に活かしていきます。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	(1)(2)地域包括支援センター、市民協働課、協議体、自治会町内会、ボランティア団体との連携、情報共有を行いながら現状を把握していきます。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		6年4月 ～ 7年3月	(1)地域の活動をまとめた資料を基に地域とつながるよう、活動状況、必要な社会資源とのマッチング方法を模索し、より良い活動の仕組みを考えていきます。 (2)引き続きふれあいサロンについての活動説明、保険についてなど、協議体や座談会などの情報を広報して立ち上げの協力をしていきます。		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度			
担当者	職名	課長補佐	氏名	小林一郎
該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう—連携強化と拠点づくり	
	取り組み	②	関係機関との連携体制作り	
現状と課題	<p>高齢化により移動困難者が増えてきています。取手市内では多くの地域で通院や買い物など移動手段についての不便を訴える傾向が強い状態です。取手市ではボランティア団体や地域活動において高齢化により若い人たちによる社会貢献活動が求められています。様々な分野で学生のボランティア活動が発展するような仕組みづくりが急務となっています。</p>			
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>(1)住民ニーズの把握に努めます。          ・実施内容：市内全域での共通の課題である買物や移動手段について課題解決につながる取り組みについて調査します。          ・実施期間：令和6年3月31日まで          ・達成目標：移動スーパーの買い物帰りに立ち寄るサロン作りの推進ふれあいサロンづくりにつなげます。          (2)学校と連携した地域の拠点づくりに努めます。          ・実施内容：市内の高校生を対象としたボランティア活動の周知と活動に協力します。          ・実施期間：令和6年3月31日まで          ・達成目標：各学校にUNSAMの活動について周知し、加入促進につなげます。</p>			
令和5年度の実施状況	<p>(1)地域交流の拠点として小文間地区でのふれあいサロン立ち上げに協力していただけるよう話し合いを持ちました。ふれあいサロンの内容について参加者に紹介し、どのような方が協力していただけるか、どのような関わりができるかについて相談しました。          (2)募金活動や学習支援など幅広く活動している高校生のふれあいサロンUNSAMについて市内の高校7校に活動内容を知ってもらうためのPR用の動画を作成しています。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		9月～ 3月	4	(1) 地域ボランティアや高齢者のつどいの場として行われている交流拠点であるふれあいサロンを買い物帰りのおやすみ処のような居場所づくりの役割も担い、開催時に移動スーパーが来て買物もできる仕組みができれば、移動スーパーで買物をしてお弁当などを買って持ち寄り歓談もできるサロンづくりに発展します。 (2) 高校生の発想力は素晴らしく、新しいボランティア活動が生まれたり、学生の頃からボランティア活動をすることで、社会人になってからも社会に活かせる活動の創出にもつながります。こども食堂での体験や高齢化社会の現状についても様々な仕組みづくりに発展する可能性もあります。	
	課題				
	(1) ふれあいサロンの拠点づくりに必要な中心となるボランティアと協力者、継続するためには多くの方の協力が必要になります。 (2) 学生に届くような有効な方法について実施する必要があります。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	(1) ふれあいサロンについて、広く知ってもらうための広報活動をして興味を持っていただいた方に対する活動の趣旨説明やメリット、助成金や保険に関する内容を詳しく説明し活動につなげます。 (2) 広報の仕方などの研究情報の発信を継続して行います。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	(1) 自治会や町内会地域でのボランティア団体等からサロン活動を必要としているニーズがある地域について情報収集します。 (2) 活動場所となるこども食堂や情報を提供する学校や先生に活動を周知します。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		6年4月 ～ 7年3月	(1) 地域資源の発掘に努めて、地域の拠点づくりを継続的に行っていきます。 (2) UNSAMについて市内の7校に活動内容を知ってもらうためのPR用の動画を使用して市内7校での啓発活動を展開します。□		
	年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度		
担当者	職名	係長	氏名 宮崎 江美子
該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう—子育て支援
	取り組み	①	子育て支援の促進
現状と課題	<p>現代の子ども達を取り巻く環境は、核家族化や共働きの世代の増加から子育て環境も変化しております。昨年度は「こども食堂」の見学や「子育て支援センター」の会議に参加させていただき、施設の役割や利用方法を幅広い世代の市民の方々に知っていただくなどの広報活動の必要性を感じました。</p> <p>また、コロナ禍の影響により親子交流の場や子どもと地域が触れ合うイベント等が減少していましたが、今後における施設等のイベントがどのように開催されていくかなど把握していく必要があると思われます。</p>		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>(1) 親子交流の場の整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：市内の子育て支援センターの視察します。</li> <li>・実施期間：令和6年3月まで</li> <li>・達成目標：コロナ前との変化など情報収集を行います。</li> </ul> <p>(2) 家族が地域とふれあう機会づくりの整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：市内のこども食堂の広報活動に同行します。(社協広報誌掲載に向けて)</li> <li>・実施期間：令和6年3月まで</li> <li>・達成目標：取材等を通じて状況の把握を行います。</li> </ul> <p>(3) 地域住民のネットワークを整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：市内子育て支援センターにおいて民生委員児童委員との関わりを知る</li> <li>・実施期間：令和6年3月まで</li> <li>・達成目標：視察を通じて状況把握を行います。</li> </ul>		
令和5年度 の実施状況	<p>(1) 藤代子育て支援センターと戸頭子育て支援センターの職員に利用状況を伺う機会がありました。現在は、利用に制限はなくプログラムも季節の製作(手型や足型で鯉のぼりづくり、クリスマスリース等)や、子育てに役立つ講演会の実施といったコロナ前の提供に戻りつつある情報を得ました。</p> <p>(2) 8月に市内のこども食堂「にっこりキッチン」へ社会福祉協議会の広報活動に同行し、夏祭りイベントに参加いたしました。多くのご家族が参加され、スタンプラリー式で射的やヨーヨー釣り等を楽しみながら、こども食堂のスタッフや参加されている地域の方々と触れ合い、大人も子どもも対話を通して沢山の情報を得る、貴重な交流の場と感じました。</p> <p>(3) 地域住民のネットワーク作りでは、子育て支援センターの活動の中でお母さん向けのイベント(ヨガ、もの作り、講演会など)の際、民生委員の主任児童委員の方々に、子ども達の見守りを依頼されておりました。更には、育児相談は子育て支援センターの保育士、兄弟の学校の相談など地域の相談は民生委員が対応するなど、参加されている親御さんが子育てについて相談しやすい環境づくりを目指しておりました。</p>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		令和5 年7月 ～ 令和6 年1月	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センターでの利用状況を確認し、更には、職員の関わり方について知ることが出来ました。相談内容によっては、保育士だけではなく、民生委員が対応し信頼関係を持ちながら、安心して地域の方々と関わる機会がありました。</li> <li>・市内のこども食堂のイベントに参加し、幅広い年齢層の方が楽しみながらコミュニケーションを図れる場だと改めて感じました。今後も交流の場の増加を目指し社会福祉協議会として関わられることを模索して参ります。</li> </ul>		
	課題					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内4か所ある子育て支援センターのうち、藤代子育て支援センターと戸頭子育て支援センターが令和6年度より民営化となります。公的な白山子育て支援センターと井野なないろ子育て支援センターとの利用状況や活動内容についてどのような変化が見られるのか保護者目線で情報収集が必要と考えます。</li> </ul>					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センターを利用している保護者を対象にアンケート等を依頼し、地域の活動に必要とされているものは何か具体的に調査して参ります。</li> </ul>					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や民営化される子育て支援センターと情報共有を図りながら、地域の中で子育て世代が親子で交流が持てる場を整備して参ります。</li> </ul>					
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明			
		令和6 年4月 ～ 令和7 年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民のコミュニケーションの場として機能がより高まるよう「こども食堂」の増加を目指し、民間や自治体が主体となり取り組みやすいよう、ボランティアの育成等に協力して参ります。</li> <li>・民営化となる子育て支援センターの活動について情報収集を致します。</li> </ul>			
	年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。						

## 第二次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

シート作成年度	令和5年度		
担当者	職名	係長	氏名 宮崎 江美子
該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう—子育て支援
	取り組み	②	安心できる居場所をつくります
現状と課題	<p>・親子で安心して過ごせる居場所など、触れ合える場や異年齢との交流の場の情報配信を工夫しながら、子育て世代が地域の中で継続的に活動参加し、子育て支援につながるように支援する。</p> <p>・地域子育て支援センター、こども食堂、自治会など、季節ごとのイベント情報の配信を考え、地域の中でのコミュニケーションの場を増やす。</p>		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<p>(1) 安心できる遊び場、居場所づくりをつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：こども食堂や子育て支援センターでの活動の状況確認を行い視察をする</li> <li>・実施期間：令和6年3月まで</li> <li>・達成目標：新しいこども食堂などの親子での交流の状況を調査します。</li> </ul> <p>(2) 遊び方を学べる機会をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：げんきサロン、高齢者センターあけぼの等においてシニア世代との交流会を視察します。</li> <li>・実施期間：令和6年3月まで</li> <li>・達成目標：高齢者の活動団体による活動の現状を把握します。</li> </ul> <p>(3) 遊び場見守り体制を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容：自治会やボランティア団体（見守り隊）に近隣の公園の見守り状況を具体的に確認します。</li> <li>・実施期間：令和6年3月まで</li> <li>・達成目標：市内の公園の見守りを登下校中に気にかけて頂き子どもたちが安心して過ごせるようにします。</li> </ul>		
令和5年度 の実施状況	<p>(1) 地域子育て支援センターの今年度の運営状況は通常に戻りつつあることを確認いたしました。午前中の活動は、LINEによる予約制でしたが人数に制限はありません。各子育て支援センターでの職員体制は保育士が中心ですが保健師や看護師も在籍され、子育て相談等に応じています。更には、保健センターより保健師の巡回相談会を各センターにて、年4回行われていました。子育て世代の保護者の方々にとって安心して通える居場所となっている印象です。また、広報活動には継続的にLINEを有効活用し世代に合わせた情報の配信を実施していました。</p> <p>(2) シニア世代との交流については、げんきサロン等において異年齢との直接の関わりはまだ見合わせている状況でした。現在では、こども食堂の存在が大きくなり地域の方々とのコミュニティの場となっている様子が伺えました。8月には「にっこりキッチン」の夏祭りに参加させて頂き年齢層の幅が広く関わる場だと実感いたしました。</p> <p>(3) 公園など遊び場の見守りは、スクールガード（見守り隊）や近隣の民生委員の方々により継続されています。公園の遊具の点検や入替については、取手市水とみどりの課における「公園施設長寿命化計画」の取り組みにより、羽中公園は児童を対象とし高さのある滑り台のまま入替、大鹿橋公園には、インクルーシブ遊具を検討していただき、発達がゆっくりなお子さんや車椅子でも対応できるよう出入口はスロープにするなど、誰もが楽しめる遊び場となるよう、地域環境や利用する人たちに合わせた公園づくりを目指す計画に昨年度から関わることができました。</p>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		令和5 年7月 ～ 令和6 年1月	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代や子ども達が、地域の中で関われる場が通常に戻りつつありました。また、新たに「こども食堂」が増えている情報も得ました。</li> <li>・地域の公園の遊具の入れ替えに際して、利用している子ども達の状況等を担当課に伝えることが出来ました。インクルーシブな公園の増加を目指し、誰もが安心して遊べる居場所へと変化している事を感じます。</li> </ul>	
	課題				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センターの活動内容について、広報活動を継続し子育て世代へ周知し、さらには、子育て支援課と調整しながら、支援センターを利用されている保護者の声を伺い、地域の子育て支援の向上を目指す。</li> <li>・こども食堂等、学生ボランティアの育成が必要です。</li> </ul>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動は、取手市社会福祉協議会としてホームページやFacebook、情報誌の活用を通して地域の子育て世代の知りたい情報を配信できるよう努めます。</li> <li>・子育て支援課と調整しながら、支援センターを利用している保護者を対象にアンケート調査を検討します。</li> </ul>				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の行動目標と共に情報の共有を行いながら子育て支援に繋がるよう連携して参ります。</li> </ul>				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		令和6 年4月 ～ 令和7 年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の交流の場や異年齢との関りについて、安心できる環境の中で人との繋がりが学べる機会が存続できるよう、社会福祉協議会としてサポートし地域の子育て支援の向上を目指して参ります。</li> <li>・こども食堂については、高校生のボランティア団体の情報を得ながら育成を目指して参ります。</li> </ul>		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
今後も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					